

意見交換会概要

日時	平成25年 5月 30日 (木) 19 : 30 ~ 21 : 15
場所	瑞穂地区公民館(瑞穂地区座談会)
参加者数	約20人
出席者	長谷川参事、校区審議室(神谷、小谷、清水)、山田支所長、安藤副支所長、茅山課長補佐ほか

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	是非を語る前に質問だが、校区審議会とはどういった組織でどんなメンバーで構成されているのか。また校区審議会の設置は何に基づいているのか。校区審議会と教育委員会との関係が不明、校区審議会が答申とか教育委員会が決定とのことだが、システムや決定までのプロセスが分からない。
参加者 B	1月に校区審議会は答申(中間とりまとめ)を出し資料を公表したというが、実際にはどういった形でこの気高町内に広報したのか。地域審議会の一部の人間ではなく、広く住民に情報を公開したのかを聞いている。最近、行政はホームページ上で公表したとよくいうが、どれだけの人間がホームページを確認するのか。住民すべてがパソコンを使えるわけではないのに、ホームページを見ない方が悪いといった考え方を。それで公表したというならパソコンを全世帯に配給すべきだ。市報や支所だよりに載っているのならまだしも、今の今まで住民に対しての情報提供は行っていない。1月に答申を公表したというが、意見交換会は6月に差し掛かろうとするこの時期だ。何をやっている。本当に情報提供が遅すぎる。
参加者 B	ホームページにしても探しにくい隅の方に載っていたが、掲載されている校区審議会の資料には、建替えのスケジュールまで載っているものが公開されている。それにはH27年には学校の工事が完了するとあった。我々に意見を求めるといいながら、一方では統合までのスケジュールを載せているなんて。結論が決まっていることに対し、地域との意見交換することに意味があるのか。結論の出ているものを意見交換をすることで住民に期待を持たせるようなやり方はどうか。白黒ついたことをひっくり返えそうとは思わない。「こうなります」と早めに情報提供するならまだしも、1月に答申を公表してから、この時期に住民に知らせるのは遅すぎる。
参加者 C	今回、座談会の文書を各戸配布されたが、その中には統合問題のことなど一言も触れられていない。防災無線もあったが、その中でも小学校の問題を協議することなどと一度も触れていない。今回の話は鹿野の人から聞いた。
参加者 D	説明を聞くと、耐震性がどうか規模がどうかすべて大人の理屈。見方を変えればデメリットもメリットとなる。子供にとってどういう環境がいいのか、子供の教育をどう考えるかなど子供中心に考えてもらえばいいと思う。
参加者 F	3年前、青谷分室に勤めていたが、その頃は青谷中にしても気高中にしても、耐震補強を行う方向で固まっていた。いつ頃設計をし、いつ頃改築するといったスケジュールも決まっておりました資料としてあった。それを青谷町地域審議会ですべて説明したのだから確かなことだ。資料は分室だけで作ったものでなく、当時の教育委員会との共通認識である。人口推計も以前から出ており、子供数の減少についても最近分かったことではなく昔から言われていたこと。そのうえで耐震改修という話であった。それが今になって統合という話が出るということに納得できない。教育論でなく財政論でこういった話に変わったとしか思えない。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 G	<p>新聞には県教委が「ゆとり教育」を推進すると載っていたが、今回、市教委は学校統合を進めている。県教委が掲げている「ゆとり教育」と反することを進める市教委の考えはどういったことか。学校規模が大きくなっても、市教委はゆとりのある教育を進めることができるのか。規模が大きくなると落ちこぼれやイジメといった問題もおこるし、教員は30人の子供に目が届かせ、きめ細かな教育に注意を払わないといけない。教員にとっても30人の子供を見なければならないというのは、プレッシャーがかかるだろう。反面、瑞穂小のような規模なら教員の負担も少ない。教員の心のゆとりも、教育にいい効果となっているのではないか。市教委の考え方についてお聞きしたい。</p>
参加者 G	<p>今のまま学校を存続してほしい。私の孫は浜村に住んでいるが、今は小規模校転入制度により瑞穂小学校にお世話になっている。大きいところとは違い、地域、学校周辺の方々からよくしてもらっており、有難い。孫も地域の子供として同じよう声をかけてもらったり、学校生活の様子も気にかけてもらったり、この環境は家族としても安心だ。学校のことが一番分かっているのは子供だと思う。耐震がどうか児童数がどうか、子供からしたら問題ではない。小さいと競争心が育たないとか、そういったことも大人の考え方。子供の意見を聞いてほしい。学校が廃校となることが悲しくて自殺した小学生がいた。自らの命をもって抗議したのだろう。子供は子供なりの意見をもっている当事者なのだから聞く耳をもって欲しい。</p>
参加者 G	<p>P T Aでこの問題の説明をしたというが、説明を聞いてきた親は、統合は決定的と感じた様子。とても不安そうだった。県教委の示す「ゆとり教育」を市教委は実践できるのかが疑問。学習面も気にかかる。教員と子供が1対1で行う授業と1対多数で行う授業とでは、きめ細かい学習指導の差は歴然。ゆとりについて考えてほしい。瑞穂小は小規模校だが逢坂小と遠足を合同に行うなど交流している。行事の時、逢坂の子たちと交流するなどし、小規模校ではできないことの解消にも取り組んでいる。</p>
参加者 G	<p>座談会に来ているのはごく一部の人しかいない。資料を全戸配布すべきではないか。</p>
参加者 F	<p>地域審議会や意見交換会でもいいが、校区割りを変えと言ったが案は出していないのか。</p>
参加者 H	<p>うちの孫は瑞穂小学校に通っているが学年には2人しかいない（春までは3人だったが）。切磋琢磨ができないというが、担任の先生は3人みんなで100点を取ることを目標に掲げ、子供達の協力を促しながら指導されていた。学校側も過小規模校対策として、浜村小学校との交流するなど工夫されている。その交流の時、孫はあまりの人数にショックを受けていたことを覚えている。何が正しいのか難しい。この学校の問題は家庭内でも意見が分かれる案件。見切り発車で決着をつけないよう、住民が納得する決定をしてほしい。</p>
参加者 I	<p>文部省通達では通学距離は3kmとなっていると思うが、4校をひとつにすると通学距離は長くなり文部省通達にそぐわない結果となる。文部省に沿わない考え方が根本にあるが、校区審議会はこのことをどう考えるのか。また、誰が審議会委員かは知らないが気高町の実情を知ったうえで考えたのか。地理的に知らないのであれば歩いてみるなり、地域の実情を調べてみるなりした上での議論となるべき。通学方法についても問題となる。保護者は子供に付き添って瑞穂小へ通学している。距離が遠くなると親へ負担も大きくなる。</p>
参加者 B	<p>今の市庁舎問題と同じだ。説明不足や情報公開の遅さも庁舎問題と同じ。騒ぎとなる。</p>